

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

August 2016
Vol. 48
毎月10日発行

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467

時間のある夏休みに 「読み」「書き」の力をつけよう!

高木 秀章(塾長)



暑い日が続きますが、皆さんは夏バテしていませんか。特に塾では、場所によってクーラーが強く当たる場所とそうではない場所があります。寒い場合は長袖の上着を用意するようにしてください。いつもより時間のある夏休み(受験生や中学生の中にはかえってクラブと講習会で忙しい人もいるかもしれませんが)に挑戦して習慣にして欲しいことが、読書や新聞を読むこと、日記をつけることなどによる「読み」「書き」の力をつけることです。

下記は、昨年度の公立高校入試問題の英語のC問題に出題された英作文です。一度、挑戦してみてください。英語の問題を解く上で、いかに国語力が重要かがよくわかります。

次の英文を読んで、あとの条件1・2にしたがって英文を書きなさい。

Someone said to you, "When we meet a person for the first time, first impressions are important." What do you think about this opinion? Write your opinion in about 40 words. (注) impression 印象 opinion 意見

解答例

I (think) · don't think] first impressions are important. It is said we have first impressions when we meet others for the first time. But if someone has a bad impression of us, it takes long time to change it. So we should be always careful of our image. (40単語)

私は第一印象が重要だと思います。

私達が初めて他人に会うとき、第一印象を抱くと言われています。しかし、もし誰かが私達に悪い印象を持ったら、それを変えるためには時間がかかります。だから私達は常に自分の印象には気をつけるべきです。

どうでしょうか。なかなか難しい問題です。

第一印象が重要か、重要ではないかについての問題ですが、自分自身の意見を論理的に述べるという問題ですので、活用型の問題だと言えます。このような課題英作文の問題では、自分が知っている単語や文法表現の範囲で解答の日本語を考え、それを英文に書き換える必要があります。この問題は問いが第一印象と抽象的なだけに、英語力以上に、解答の日本語を考える国語力が求められます。活用型の問題は、いくつかの限られた情報の中から、自分の考えや意見をまとめ、それを論理的に述べるという問題です。このような問題は、2020年の大学入試制度変更に伴う教育改革の一環であり、今後この傾向の問題は確実に増えていきます。国際的な学習到達度調査(PISA)を行う経済協力開発機構(OECD)の教育局長は「知識はグーグルで検索すればいい。重要なのは知識を活用する能力だ。」と言っていますが、今後の入試で求められる学力は、従来の「知識」「技能」の暗記だけでなく、それらを活用するための「思考力・判断力・表現力」であるということなのです。

そして、この「思考力」「判断力」「表現力」の基礎力となっている力が、「読む力」と「書く

力」です。そして、ここに受験では更に時間制限が加わりますので、正確には「早く読む力」と「早く論理構成をし、書く力」が必要だといえます。ご存知の通り、このような「読み」「書き」の力は簡単に身に付けることができません。毎日の地道な努力を積み重ねる以外にこれらを習得する方法はありませんが、努力すれば確実につく力でもあります。今まで「読み」「書き」の力に関しては、全ての教科の土台となる学力の「地力」として大切なことはわかっていたましたが、暗記教科よりも、努力が結果に表れにくいので、後回しにされてきました。しかし、新しい入試制度では、そうはいきません。小学生の時から読書に親しみ、活字に慣れておくことが、今後、大学入試までの全ての入試に通底する力を培います。

また、特に中学2年生からは、新聞の社説は読むようにしましょう。社説には各新聞社の意見が述べられていますので、社説を読むことで時事的な事柄に対する基本的な考え方を知ることができます。この社説に対する意見を300字程度で書く練習をすることで、活用型問題の対策に十分になります。もし、社説が難しい場合は、慣れるまでオピニオン(投書欄)を利用し意見を書いても構いません。オピニオンは読者の意見ですので、比較

的文章が平易で取り組みやすいと思います。書いた文章は、各教室の先生に添削してもらえば、より効果的な学習になります。

また、日記をつけることで自分の経験を意図的に蓄積することができます。活用型問題で必要なことは自分の意見を述べることです。そこには自分の考え方、倫理観(自分にとって何が正しくて、何が悪いかという判断基準)が必要不可欠です。日記に自分の考えに基づく経験を書き留めることで、自分の意見をまとめる際の型が出来ます。幸田露伴はその著書「努力論」の中で努力の種類について、直接的努力と間接的努力について述べています。直接的努力とはさしあたっての努力で、目の前のことに全力を尽くすこと。間接的努力とは、将来における準備を行う努力、基礎となる努力です。これから求められる学力は、まさにこの間接的努力を要する、どのような学習にも対応できる地力としての学力だと言えます。これに関しては塾でも、小学部の名作鑑賞や、理科のディベート授業や実験、中学部の活用型問題への取り組み、また、9月より開講予定の活用力専門講座などで対応しておりますが、やはり普段からの取り組みが最も重要であると思います。



CLASSROOM REPORT 教室レポート

興味のある職業を調べることで 勉強への取り組みが変わります。

川西 久志 (今福教室)

こんにちは。夏真っ盛りですごく暑いですね。暑さですでに体が温まった状態ですので、ウォームアップをしなくても体が動くこの季節が好きです。生徒の中には夏バテ気味の子もいますが、今福教室には暑さに負けずに400人以上の生徒が通ってくれています。今回は今福教室の様子をお伝えしたいと思います。

<パスカル>

新年度がスタートして、5か月程がたちました。その中にはまだ年中さんもいて、字を書く手もおぼつかない段階からスタートしました。今は字も覚え、すでに2桁の数字を認知できるようになっていて、覚えも早くなってきています。「できるようになる楽しさ」がわかってきたようです。また、少人数制のパスカルですが、3人以上集まれば1つの集団としてのルールが必要になります。勉強以外にも集団生活のルール（例えば順番を待つなど）も習得してきました。

パスカルでは最初の7分で読書をしているのですが、宇宙のことに興味がある生徒がいます。ちょっと学年的に難しいテーマですが、自分が興味のある分野なので、難しい内容でもあきらめず、積極的に読むことができますし、吸収も早いと思います。何がきっかけで興味を持つかは読んでみるまで分かりません。生徒の皆さんは読書の時間で自分が読んだことのない本や、あまり興味がわかない本でも積極的に手をのばしてみてください。そこに新しい発見があるのではないのでしょうか。

<珠算部>

3月からスタートした珠算の生徒達は入門を超えて、9級や8級になっている生徒達が増えてきました。進級するとそろばんが楽しくなってきたり、夢中になる生徒も出てきます。指導は各級全てに導入プリントという新しい技術を覚えるためのプリントがあるので、この導入を終えてから練習プリントに入ります。例えば7級なら速くても2か月かかるのですが、中

には導入を速くクリアし、お家で練習して、たった1か月で7級から6級に進級した生徒もいます。基礎を学んできて、そろばんのことが分かってきた生徒は、一度、家でも練習してみたいかでしょうか？そうすると進級も早く、すぐに上級である3級に到達できると思います。3級以上は検定会場も教室ではなく、大きな会場になり、また違った世界が見られます。

3級以上の上級部では6月末と7月に3級以上の上級検定と段位の検定がありました。4か月に1度しかないこの検定に合格するために先生も生徒も必死に努力します。3級の生徒で見取り算（足し算と引き算）が苦手な生徒がいました。担当の辻本先生と一緒に一つずつ間違いの原因を探して直していった結果、なんと300点満点で合格することができました。よく頑張りました。これを機に2級も頑張ってください。

<小学部>

小学部では4年生達が塾に慣れてきました。3月入会時はまず大人数での授業の受け方、姿勢などから教え、月に一度のテストは競争であることや、そのテストに向かって目標を持ち努力することの大切さを繰り返し話しました。厳しい話をすることもありましたが、みんな見事に成長し、テストで高得点を取る生徒が増えてきました。学校のテストも100点をとれるようになったというお声もいただいています。この調子で皆さん頑張ってください。

<中学部>

中学1年生は、中学生になって初めての中間テストと6月の期末テストを経験し、ある程度中学生活に慣れて始めてきました。初めての3時間自習や9時間自習を経験し、テスト前にどれくらい勉強しなければならぬのかが分かってきたようです。部活と両立して、しかもテスト前は塾での自習があるのですが、ほぼ休まず出席し、勉強をやり切ってくれました。夏期講習の最後の日には模試を行うのです

が、模試は皆さんの将来の進学先を決定することになる大事なテストです。部活動と学校の宿題、そして塾とかなり忙しくなりますので、体調管理には気を付けてください。

中学2、3年生は三者懇談を行いました。中学2年生になると将来これがしたい、あれがしたいという生徒が出てきています。将来、なりた職業を持つのはすばらしいことです。でも実際にどうすればその職業に就けるのか？先生も分からない部分がありました。そこで、実際に企業や官公庁に連絡をして聞いてみました。電話口の担当者の方は親切丁寧に業界の状況や、有利になる大学の学部などを教えてくれ、それを生徒に伝えることでやる気が湧き、成績を伸ばす子も出ました。「こうすればなりたのものになれる」と分かれば勉強にも身が入るといっていいでしょう。興味がある分野がある生徒は一度ネットで調べ、もっと知りたければ、先生に相談してください。できるだけ細かく生きた情報を皆さんに提供するようにします。

中学3年生は面談で志望校をある程度決定しました。面談で決定した目標校に合格するために最後の夏期講習があります。3年生の皆さんにGrowingが配布されるのは8月のお盆明けですが、皆さんに覚えておいていただきたいことがあります。2学期には進路を決定するテストが集中しています。そのテストで結果を出し、皆さんが自分の目標を達成するためには夏期講習の一日一日が非常に貴重になります。ですからその日の内にできることはその日で片づけ、決して次の日に先送りしないようにしてください。先生達も時間の許す限り皆さんの質問対応や補習授業を行います。結果を出すためには一日でどれだけできるかが勝負になってきます。皆さん自身は目の前の宿題や小テストを理解するまで取り組んでいただければそれでいいのですが、少しでも疑問があればすぐに解消しておきましょう。



Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

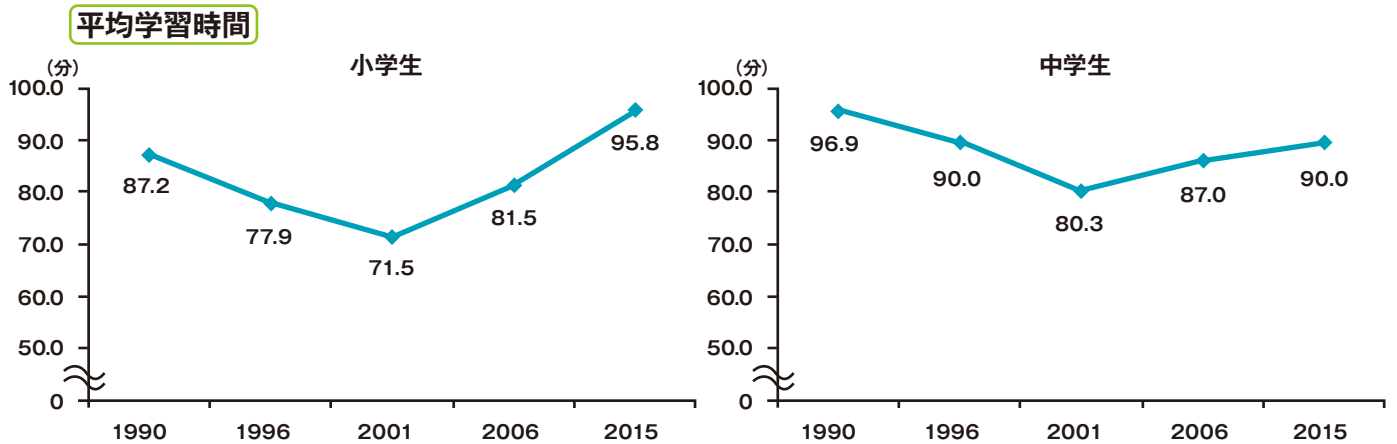
夏期講習もラストスパート! 最後まで先生達と頑張ろう!!

小田 忠 (関目教室)

こんにちは。関目教室の小田です。

この記事を書いているのは7月中旬ですが、皆さんがこの記事を読む頃には8月中旬を過ぎ、夏期講習も佳境に入ってきている時期で、一人ひとりが目標に向かって机に向かって懸命にいることだと思います。

夏期講習は言うまでもなく、学力を向上させる最大のチャンスです。まず下記のグラフをご覧ください。



(2015ベネッセ教育研究所調べ)

これは平日の平均学習時間(学習塾での勉強時間も含みます)です。小学生は1日に95.8分、中学生は90分勉強しています。ここからは中学生を例にあげていきますが、1日に90分勉強すると、1か月で2700分=45時間勉強していることになります。受験生は夏期講習で塾で240分、1教科につき60分ぐらい時間がかかる宿題が出ると考えて、1日3教科なので180分。あとは学校の宿題で1日60分。と考えると1日の勉強時間は480分。家族で外出する日や休養日を考慮し、26日勉強すると480分×26=12480分=208時間となります。

ということは、この夏休みだけで通常月の4.6か月分(208÷45=4.6)の勉強時間を確保できます。このようなまとまった時間を確保できるからこそ、夏は苦手克服を一気に進めることが可能なのです。

そして、塾では皆さんが効率よく学習を進めるために、学習カリキュラムを教科主任の先生が組んでいます。そのカリキュラムの中に「やり切る項目」があります。

その「やり切る項目」を完璧にやり切ってください。「やり切る」と言うのは、わからなければ、質問して、解きなおしをする。つまり、「わかる」から「できる」にすることです。そうすれば必ず成績は上がります。まだ、夏期講習は1週間程あると思います。1週間でも、通常月の1か月分にあたる勉強時間が確保でき、「やり切る項目」は十分できるはずですよ。

夏期講習のラストスパート、最後まで力を振り絞り、先生達と一緒に頑張らしましょう。

最後に、関目教室では福井先生の発案で「夏期講習」のローガンを立てています。7月初旬から中学生に考えてもらい、関目の先生達全員の投票で選びました。

そのローガンは

中学1年生

『この夏は 己に勝利! 動かせペン』

中学2年生

『この夏は 苦手を得意に かえるとき』

中学3年生

『この夏は 涼しい中で 熱くなれ』

選んでいると、思わず「お～」とうなるような名作品が多々ありました。生徒達はいいい題材を与えると、素晴らしい思考力と表現力を発揮してくれます。子供達の大きな可能性を感じた瞬間でした。これからも色々、生徒達の知的好奇心をくすぐるような題材を与えていこうと思います。

さあ、残り1週間!!最後の1秒まで頑張らしましょう。

COLUMN: 先生紹介 ▶ 板東 亨 (諸口教室)



はじめまして、6月にカイチに入社しました板東亨といたします。カイチに入社する前は、某大手塾などで10年以上主に理系科目を教えていました。カイチに入社

する際一番の決め手になったのは「そろばん」です。そろばんコースがある進学塾など私の今までの概念には全くなかったのでも驚き、そしてうれしくなりました。なぜなら私も小学生のときにそろばんを習っていたからです。有段者になり、そのことがとても役に

立ってきました。まずは計算力。中学生や高校生の頃の数学のテストのときなどに計算をすばやくすることができ、そろばんを習っていた良かったとよく思いました。次に集中力。決められた時間一心不乱にそろばんに向かうことで養われた集中力が、そろばん以外のことにも役立ってきたと思います。今、関目教室のそろばんを担当していますが、当時のことを思い出しながら改めてそろばんの良さを再確認しています。

話は変わりますが、生徒から「勉強の仕方が分からへん。」保護者の方からも「先生、うちの子、勉強の仕方が分かっていないみたいなんです。」という相談を受けることがよくあります。これは例えるなら、体育のマラソンの時間に、「先生、俺、走り方分かれへん。」と言っているのと同じことです。まずは手を振っ

て進んでみなさい。まずは机に座ってテキストを開いてみなさい、ということです。全てとは言いませんが、勉強をしたくないから、もしくは勉強しなければいけない現実から逃げるために、「勉強の仕方が分からない。」という言葉を使っている人もいます。塾や学校の授業をきちんと聞いて宿題などもして、分からないところがあれば積極的に質問をして、それを3、4か月続けているのにどうしても結果が出ない、点数が伸びないときに、「先生、僕の(私の)勉強の仕方間違っていますか」「先生、どんなに頑張っても成績が伸びません。」と言う資格があるのです。私はそういう生徒には全力でサポートします。今後ともよろしく願い申し上げます。

最後に、私には9歳の娘がいます。趣味は「育児、娘と遊ぶこと。」と答えてしまうほど、はっきり言って「親バカ」です。娘がポケモンが好きなので、我が家には150以上のポケモンのぬいぐるみがあります。



高木の
ちょっと

TEACHER'S VOICE

イイ話

高木 直也 (諸口教室)

珠算の良さ

今現在、諸口教室珠算部には幼稚園から中学生と非常に幅広い年齢層の生徒が珠算部に通塾いただいております。指導している日々感じることは、今後必要になってくる大切なことを多く学ぶことができるということです。

珠算を練習していく上でまず苦勞するのは、計算よりも力の加減や指の運び方など、そろばんを扱う際に求められる繊細さの部分です。ちょっと力むだけで置いた珠がはね返ったり、違う珠が動いてしまったり思い通りに動かすことは簡単なようで難しい。集中力を指先第一関節にまで込めて行う作業など、日常生活で学ぶ機会などなかなかありません。そのような繊細さを、幼少の時から学べるなんて何と貴重なことでしょう。珠算は繊細に物事を扱う大切さを学ぶことができる素晴らしいものです。

また、珠算では忍耐力も問われるものです。

何か素晴らしい指導を受けて突然うまくなるものでもありません。何日も何日も練習を重ねて、1題しか置けなかったものが、2題に、3題にと少しずつ置けるようになっていく。練習しなければできないままであるが、練習を毎日続けていくことで少しずつ前に進んでいく様は受験生が毎日毎日勉強して少しずつ成績を上げていく様に重なります。中々目に見えて成果が表れないものを続けていくことは、子供達にとっては忍耐のいることです。しかし、真面目に続けていくことで大きな成果が後になって表れることを幼少の頃から学ぶことは非常に大事なことであり、我慢強く持続的に努力できる子供に育ててくれる機会を珠算は作ってくれます。

カイチの珠算の指導で特に注意を払っているのは「そろばんを置く姿勢」です。背筋を伸ばし、机からこぶし一つ分の間隔をあけ、置く時は肘を上げて置く。きれいな姿勢でないと速く正確に珠を置くことができません。生

徒達の姿も面白いもので、集中力が切れてダラダラとした姿勢で置こうとする生徒に時間制限を与え、急いで置かなければいけない状況を作ると、皆必然的に姿勢良くそろばんを置くのです。このことは、決められたことをきちんと守って徹すれば最高の結果を生むということを生徒達に教えているように思えます。

繊細な感覚を身につけること、我慢すること、決まり事を守ることは、子供は勿論、大人になってからも必要な要素です。日本の珠算の歴史を紐解くと1570年代に日本に伝来したそうです。世の中には電卓、パソコン、スマートフォンなどそろばんよりも簡単で素早く計算ができる道具が発明、世に出回っていても珠算が廃れずに今に残っているのも頷けます。

珠算を通して生徒達が大きく成長できるように、諸口教室の珠算部をもっといいクラスにできるよう、職員一同頑張っていきたいと思っております。



カイチからの お知らせ

- 8月中、学習部は夏期講習時間割となりますのでご注意ください。また、パスカルキッズは一部の教室で時間帯が変わります。ご注意ください。
- 8月8日(月)～8月13日(土)・8月26日(金)・27日(土)は休塾日です。
- 8月20日(土)は珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズ・小学生対象に夏のビンゴ大会を行います。詳細はお知らせを配布いたします。楽しみにしてください。
- 8月25日(木)より通常授業がスタートします。